

～私たちの見た湯布院のまち～ 参加者のメッセージ



今回の講師、湯布院商工会長溝口薫平氏の講話は60分。熱意あふれる内容で語られ、感動と感激の中、アツという間の時間でした。  
町の再生と活性化に向けて、100年の大計を元に町民一人ひとりの気持ちを尊重し、「緑とやすらぎと空間」を軸として進められた不動の町づくり精神とその事業の数々。私たちが毎日の暮らしの中に忘れていた数々のものが感じとられ、今を生きる孫に何を残すことができるか。貴重な時間でありました。  
理解を求めながら、一步一步大切に積み重ねてこられ、官・民・地の利を活かし、知恵と工夫と共生によって今日の湯布院の発展がある経過と将来展望を伺った貴重な体験談でした。(田中 田鶴子)

溝口薫平様の講演で、すべてに共働の考え方が強調される現在でさえ、行政と住民との共働の難しさを思うとき、30年、40年前に始められたまちづくりの先駆者のご苦労に思いをはせました。  
豊かな湯、壮大な由布岳を住民の共有財産として、資金の無さを武器に、環境を大切に、「みどり・空間・静けさ」をイメージしたまちづくりを目指して親・子・孫三代の長いスパンでの夢の実現をし、小さな名もない湯のまちが全国に発信した姿を目のあたりにしました。次なる第2ステージを期待すると共に、この長い過程で湯布院の女性がどのように関わり、支え、または主人公として活躍してこられたのかをもっと知りたかったです。  
今回の研修も、良い仲間、天候に恵まれ、おいしい食べ物と美しい自然に囲まれて有意義だったことに感謝しています。合掌 (青木 妙子)

数ある温泉の中でも特に訪れたかった湯布院への旅を会員の皆様方と一緒に楽しみました。京都と同じ盆地のひなびた温泉をこれほどまでに発展させられた方々のご苦労をお聞きし、リーダーあつての今日を力強く感じ、又ゆっくりと訪れたく、名残り惜しく帰路につきました。(大橋 嬉子)

一度は訪ねてみたかった湯布院へ！ゆっくり気持ちよいお湯に入り、美味しい夕食に舌つみする。  
商工会長溝口さまの講演の中、全住民挙げて町の活性化事業に敬服！学研都市の中で新しい町づくりに追われている自分達の住む町と比較し地域に帰り考え、見直してみたい！ (早田 和代)

ゆっくりゆったりの旅で心和やかにになりました。NHK放映で見ましたので、溝口さんのお話わかりやすく思いました。湯布院の舞台づくり全国発信、楽しかったです。(松石 三重子)



自然が失われていないまち湯布院  
自然が生きているまち湯布院  
自然が守られているまち湯布院  
地域住民の住みよい環境のまち湯布院は、訪れる人を癒してくれるまち湯布院でした。失われつつある日本のふるさとが湯布院に大切に残っていた。  
湯布院のまちづくりに、女性のニーズが具体的にどのような形で組み込まれて来たのか？ ポジティブアクションは？ 勉強会で聞けなかった。そこで、翌日まちを歩いて、私なりに探してみると、表で行動しているのは圧倒的に若い女性も含めて女性が多かった。自主性をしっかり持つての行動であれば、女性パワーを認めたい。(山野上 里子)

大分湯布院一泊二日の研修旅行に参加して  
好天に恵まれ、溝口薫平さんのお話から、まち全体が協力して湯布院のまちを育て、今日に至ったこと、そしてその現実を目のあたりにして、私たちも日々、良きにつけ悪きにつけても協力することの大切さを学ぶことができ、更に参加者の皆さんとの交流を深め、コミュニケーションを持つことができ、自分にはない皆さんのパワーをいただいた旅でした。本当にありがとうございました。(森 芳子)



何年もかけて未来を見つめながら、ゆふいんの方向性をリードされた溝口薫平会長のリーダーシップに感心しました。身近なできることからやっていくことの大切さを再確認しました。この研修旅行に参加させていただいたこと、田中先生と素敵なお仲間と一緒にできましたことに感謝します。(大野 三恵子)

KYOのあけぼの会から九州のゆふいんへ行くお話を聞いて、瞬間パツと目の前が明るくなった。皆さんに会えるよろこび・姉妹との再会のように嬉しかった。これが神様からの贈り物と思った。皆さんの親切と愛情、嬉しかった。如何にして恩返しをしたらよいのだろう。皆さんの温かさを素直に戴くことが一番大切なことだと思った。  
食事のときに、京都への感謝をどれ程いただいているかというお話もあった。私は京都で生まれ、京都で育った。戦後すぐ西陣織物始めた。京都の和装産業として世界に誇れる民族衣装を作るため、京都のためにも力の限り努力したいと思っている。(高島 シズ子)

12,000人の町を一つにまとめた溝口薫平様のお話は抜群の説得力がありました。基本理念が明確であったこと、目的に向かって町の各層の人々の心をつなげたこと、そして何よりも自分の町湯布院を愛する心があったことが、この町が今日を迎えた理由であると思います。京都もかつては全国の注目を集めた時期がありました。今の京都に生きる者として何をすべきかを考えるときが来ていると思います。(高木 清子)

14人の方々と親しくお話ができたこと、美味しい冬の味に舌鼓。九州の地元でしか味わえないものが堪能できたこと。湯布院のまちづくりリーダーシップのある方と、それに賛同できる人があって成し得る大切なことを教えていただいたこと。一泊二日の旅でしたが、中身の濃い有意義な今回の研修でした。次回を楽しみに、健康維持に心がけたいと思います。会長さまはじめ、役員の方々に心より感謝申し上げます。(金子 啓子)

講演をきいて  
名の知られていない小さな温泉街から全国発信へとつながる舞台づくりができた今日、大きな由布岳から広がる裾野のすばらしい景観、それは(静か・緑・空間)をとことん重視され、「環境」を守ること、そのまちに住む「人の参画」(官民業種一体化)が地域活性化への成功となったと聞きました。長年かけての一貫性で培われた影の努力を痛感することができました。(一瀬 裕子)

穏やかな盆地が広がる中、中程に小高く盛り上がっている由布岳の姿は町のシンボルになっている様でした。澄み切った空気の新しさに加えて、九州の自然が醸し出す大らかな安らぎの空間が旅行者を暖かく迎え入れる保養地湯布院にすっかり魅せられました。若いとき九州に居住していた頃には、まだその名を知る人の少なかった湯布院が町おこしの様々な試みが効を奏して、今では別府を凌ぐ魅力的な温泉地に発展していることに驚異の眼を見張りました。自然を壊さず、自然と人との調和を考えて振興計画が練り上げられたこと、町民全体の共働・連帯の絆をしっかりと結んで来たこと等、溝口薫平氏の湯布院舞台づくりの話は大変示唆に富んで、勉強になりました。(武田 公子)

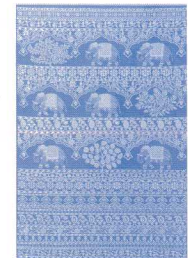
旅は天候に左右され、旅は人や風景との出会いで、その印象を強くする、まさにその通りであった。  
溝口会長からは、冬季には珍しく良い天気だったことを「晴れを持ってきてくださった皆様に感謝したい」と嬉しい挨拶をいただいた。  
お話の中で、お互いに押し上げて協力して心を合わせた地域の連帯感の様子、手の内を見せ合った旅館経営、料理人のレシピをオープンにした料理研究会など、前向きな地についた取り組みが心に残った。  
由布岳を眺めながらの温泉さんまい、おいしい食事、あれこれ楽しいゆふいん散策、ホッと心がいやされるのを実感したのは、住む人たちの心のゆたかさあふれているからなのだろう。  
又、機会があれば、四季折々の由布岳を訪ねてみたい。(岡本 薫)



由布岳をバックに参加者

KYOのあけぼの会会員高島シズ子氏受賞 (高島織物株式会社社長)

高島織物株式会社、高島シズ子社長が平成15年度西陣織大会において優秀賞に輝かれました。受賞を心からおよこび申し上げるとともに、今後とも伝統産業振興発展のため一層のご活躍を期待いたします。



受賞作品

